

E-4

日本と韓国の交通事故発生状況と安全対策の比較

The Comparison of Traffic Accident Occurrence and Safety Measure between Japan and Korea

指導教授 安井一彦 9039 乙黒大地 9145 李小微

1. はじめに

わが国の交通事故による死者数は、過去 10 年間で大幅に減少傾向にある¹⁾。しかし、隣国の韓国では近年交通事故死者数は減少傾向にあるが²⁾、日本と比較するとその減少率や傾向には差がみられる。この交通事故発生状況の違いが生じている原因として、日本と韓国で行われている安全対策の違いが考えられる。

よって、本研究では両国の交通事故データを整理し、これまで実施されてきた交通安全対策の比較を行うことで、これらの事象の原因を明らかにし、今後の有効な交通安全対策を提案することを目的とする。

2. 日本と韓国の基本データの比較

表-1 に日本と韓国の人口、面積等を示す。人口・面積・自動車台数等は日本が高く、一人当たり自動車台数は日本が韓国の約 1.5 倍となっている。

表-1 人口、面積等の比較

	人口(千人)	面積(km ²)	自動車台数(台)	一人当たり自動車台数(台/人)	道路実延長(km)
日本	127,799	377,950	79,241,738	0.62	1,210,251
韓国	50,734	99,828	21,787,500	0.43	105,931

3. 交通事故データの比較

交通事故データは、交通事故総合分析センター¹⁾、道路交通公団 TAAS 等²⁾の統計データを用いた。

(1) 交通事故発生件数・死者数・負傷者数

表-2 に交通事故件数・死者数・負傷者数の推移を示す。日本の交通事故発生件数は過去 10 年で約 27%減少している。韓国も過去 10 年で約 15%減少しているが、近年の減少率は低下している。死者数は両国の値や傾向も同程度となっている。また、負傷者数は日本が減少傾向にあるが、韓国ではほぼ横ばいとなっている。

表-2 日本と韓国における交通事故の推移

年度(年)	発生件数(件)		死者数(人)		負傷者数(人)	
	日本	韓国	日本	韓国	日本	韓国
2001	947,169	260,579	10,060	8,097	1,180,955	386,539
2002	936,721	231,026	9,575	7,222	1,167,855	348,149
2003	947,993	240,832	8,877	7,212	1,181,431	376,503
2004	952,191	220,755	8,492	6,563	1,183,120	346,987
2005	933,828	214,171	7,931	6,376	1,156,633	342,233
2006	886,864	213,745	7,272	6,327	1,098,199	340,229
2007	832,454	211,662	6,639	6,166	1,034,445	335,906
2008	766,147	215,822	6,023	5,870	945,504	338,962
2009	737,474	231,990	5,772	5,838	911,108	361,875
2010	725,773	226,878	5,745	5,505	896,208	352,458
2011	691,937	221,711	5,450	5,229	854,493	341,391
増減率(%)	-26.9	-14.9	-45.8	-35.4	-27.6	-11.7

(2) 交通事故類型の構成

図-1 に交通事故類型の構成率を示す。日本と韓国を比較すると、日本の人対車両の構成率は 10%、韓国は 22%であり、人対車両に差があることがわかる。また、人対車両の 10 万人当たり死者数は日本が 1.6 人であるのに対し、韓国は 4.0 人である。

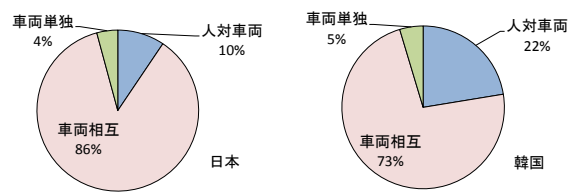


図-1 交通事故類型の構成率 (2011 年)

(3) 年齢層別事故死者数

図-2 に日本、図-3 に韓国の年齢層別事故死者数の推移を示す。日本の事故死者数は各年齢層において着実に減少傾向にあり、特に高齢者の死者数は過去 10 年で約 27%減少している。しかし、韓国の事故死者数は唯一 65 歳以上が過去 10 年で増加傾向にあり、構成率は約 33%と他の年齢に対して高まっている。

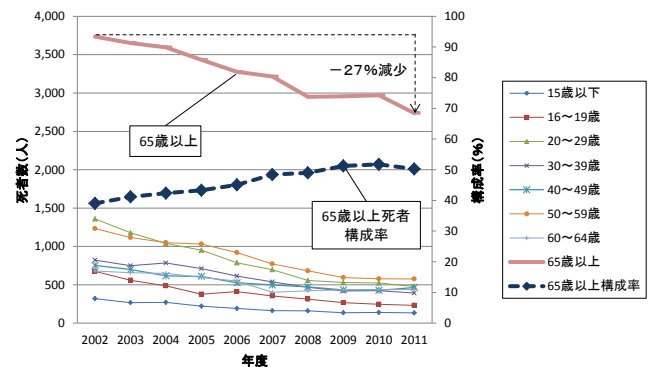


図-2 年齢層別事故死者数の推移 (日本)

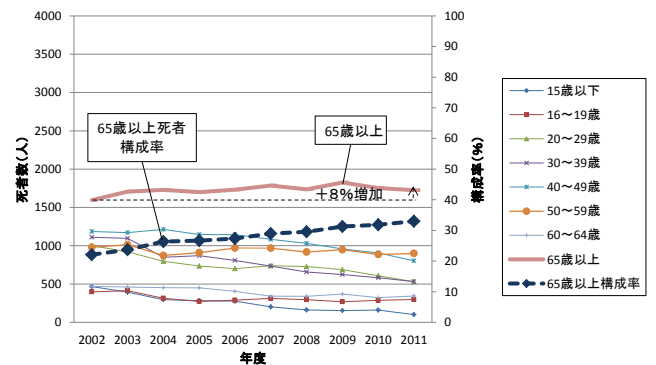
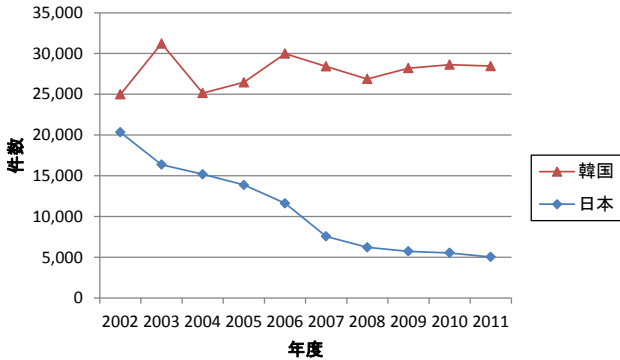


図-3 年齢層別事故死者数の推移 (韓国)

(4) 飲酒運転事故件数

図－4 に日本と韓国の飲酒運転事故件数の推移を示す。持続的に減少している日本に対し、韓国はわずかながら増加傾向にある。また、全体の交通事故件数に対する飲酒運転の占める割合を比較すると、日本は 0.7% であるのに対し韓国は 12.8% となっている。



図－4 飲酒運転事故件数の推移

4. 交通安全対策の比較

ここでは、両国の安全対策を比較する。また、交通事故データと照らし合わせるにより、どのように反映されているかを推測する。

(1) 歩行者対策

日本では「あんしん歩行エリア」といった歩行者空間の確立を推進し、歩車分離を積極的に行っている。対して韓国では車両通行中心の政策により、歩行者に対する考慮が不十分である³⁾。これは、結果として3.

(2) の類型別事故件数の人対車両の割合として現れていると考えられる。

(2) 高齢者対策

日本では高齢者事故の対策として、70 歳以上の高齢運転者には高齢者講習が行われている。また、参加・実践型の教育を行い、地域ぐるみの対策を徹底して行っている。対して韓国では自己診断マニュアル等の個人を対象とした高齢者の交通意識の啓発のみしか行われていない。これは3. (3) の高齢者死者数の傾向として現れていると考えられる。

(3) 飲酒運転対策

表－3 に飲酒運転における違反罰則の比較を示す。飲酒運転の違反基準および罰則は韓国に対し日本は厳しい水準にあることがわかった。日本は血中アルコール濃度が 0.02%～酒気帯びとして罰則対象となるが、韓国では血中アルコール濃度が 0.05%～罰則対象となっている。また、日本は車両提供者や運転者への酒類の提供者への罰則が加えられる等厳罰化が推進されてい

ることからも、飲酒運転に対する危険意識は日本が高いと考えられる。対して韓国は過去 15 年で一人当たり GDP は約 140% 向上しているが³⁾、その間罰則金の変化が少ない。経済水準に対する違反罰則金が低いことも法遵守意識の低調の要因と推測される。これは3. (4) の飲酒運転事故件数の傾向に現れていると考えられる。

表－3 飲酒運転罰則の比較

国	基準	酒気帯び運転		酒酔い
		基準	罰則	罰則
日本	基準血中アルコール濃度	0.03%～0.05%	0.05%～	運転不可能
	違反点数	13点	25点	35点
	運転免許停止	90日	2年	5年
	懲役	3年		5年
	違反罰則金	50万円以下		100万円以下
韓国	基準血中アルコール濃度	—	0.05%～0.1%	0.1%～0.2%
	違反点数	—	—	—
	運転免許停止	—	—	—
	懲役	—	6か月	6か月以上1年以下
	違反罰則金	—	24万円以下	24万～41万円
			41万～83万円以下	酒酔い
				0.2%以上

5. 安全対策の提案

ここでは、交通事故の現状と安全対策を照らし合わせた比較結果を踏まえ、有効な安全対策を提案する。

人対車両事故の対策として韓国では総合的な歩車分離を行うことによって、歩行者の安全性を確保し、人対車両事故が減少できると推測される。

高齢者事故対策として韓国は高齢運転者教習の強化や地域ぐるみで交通に対する危険意識の啓発を促進することで事故抑止の意識を浸透させ、高齢者の事故件数を減少させることができると考えられる。

飲酒運転対策として韓国の違反罰則金の値上げや罰則の強化等を行うことで、国民の飲酒運転に対する危険意識の向上を促し、事故件数を減少させることができると考えられる。

6. 結論と今後の課題

両国の交通事故データと安全対策を比較することで、日本の交通安全対策の有効性を立証することができた。それらの対策を韓国に導入することで今後の韓国における事故削減効果が期待できる。また、今回比較した項目においては日本に有効な安全対策を確認することができなかった。今後は日本においても有効な安全対策を見出すため、さらに多くの事故データと安全対策の比較・照合や諸外国との比較を行う必要がある。

参考文献

- 1) 交通事故総合分析センター：交通事故統計年報，2001～2011.
- 2) 道路交通公団 TAAS 交通事故分析システム：<http://taas.koroad.or.kr/index.jsp>，2012.
- 3) KoROAD：traffic data 2011，2012.